

千早赤阪村地域公共交通計画 概要版

1. はじめに

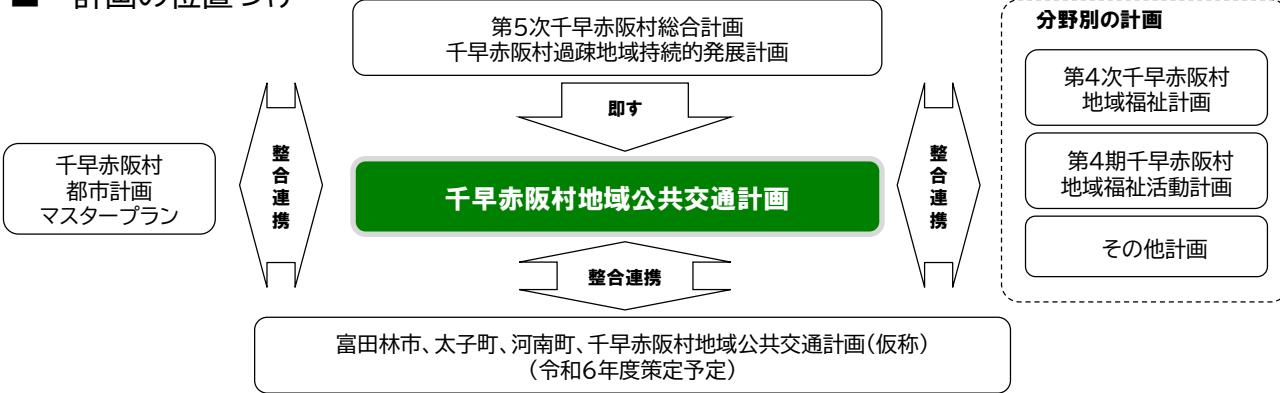
■ 計画策定の目的

- 人口急減・超高齢社会が進行する本村において、地域活力再生の観点からも持続可能な公共交通の維持・確保が必要不可欠です。
- 令和5年(2023)12月、金剛バス廃止後の代替交通として、富田林市、太子町、河南町、本村の4市町村で構成する協議会によりコミュニティバスの運行を開始しました。
- 将来にわたり村民がいきいきと暮らすことができるよう持続可能な公共交通体系を構築することを目的として、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づき、新たに「千早赤阪村地域公共交通計画」を策定するものです。

■ 計画期間と計画区域

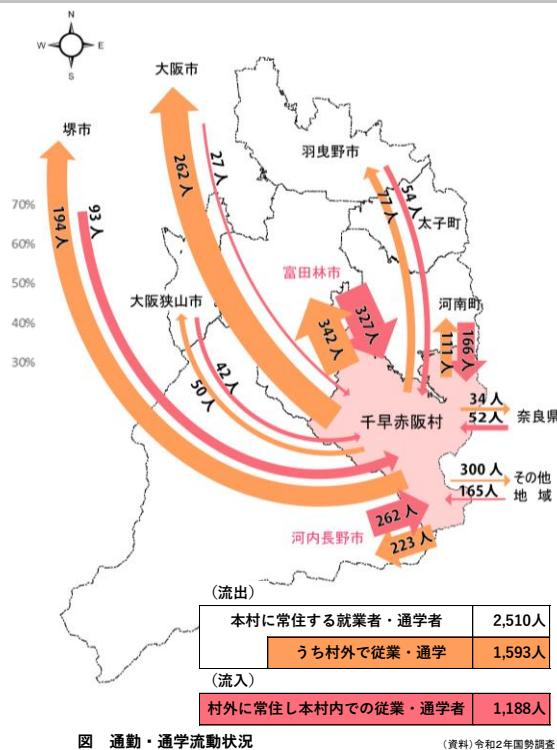
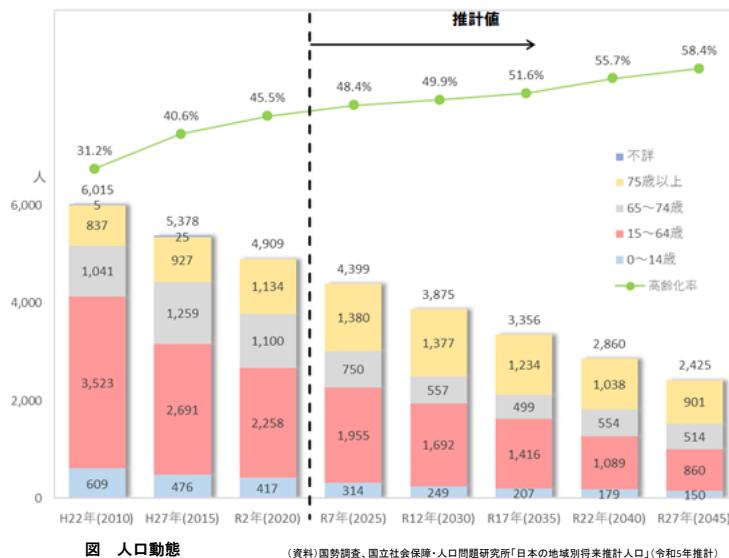
- 計画期間：令和6年度(2024)から令和11年度(2029)までの6年間 「第5次千早赤阪村総合計画」と整合
- 計画区域：千早赤阪村全域

■ 計画の位置づけ



2. 千早赤阪村の現状

- 平成22年(2010)から令和2年(2020)の10年間で急激に人口が減少し、高齢化率が上昇しています。(左図)
- 村内に常住する就業者・通学者2,510人のうち1,593人(63.5%)が村外へ通勤・通学しています。(右図)



3. 千早赤阪村の公共交通の現状

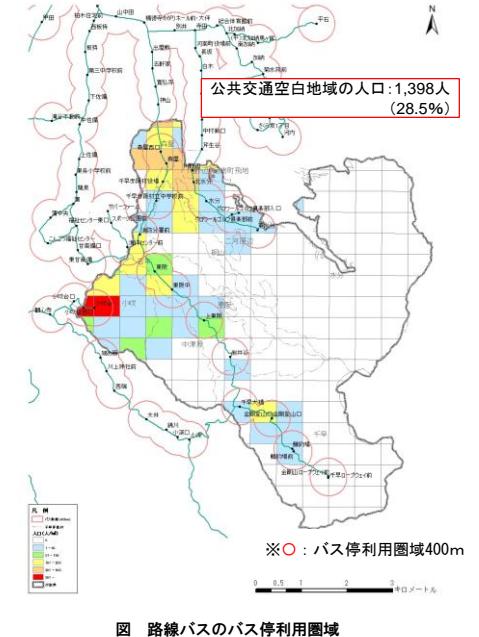
■ 村内の公共交通

- 路線バスについては、富田林駅と河内長野駅を起点としてバスネットワークが形成されています。



■ 交通空白地域

- 交通空白地域の人口は1,398人で、令和2年(2020)人口4,909人に対して28.5%を占めます。



■ 公共交通財政支出

- 金剛バス廃止により令和5年(2023)12月から、新たに4市町村及び本村でコミュニティバスを運行開始するため補正予算25,498千円を計上、公共交通関連事業に関する令和5年度(2023)予算は44,507千円となっています。
- 〔コミュニティバス25,498千円(R5補正)、スクールバス11,492千円(R5当初)、国民健康保険診療所送迎サービス317千円(R5当初)、地域公共交通利用料助成事業7,200千円(R5当初)〕

4. 公共交通の課題

課題1 利用者ニーズに応じた交通サービスの確保

- 観光、福祉・健康、教育施策とも連携して、持続可能で最適な公共交通体系の確立が必要です。
- 千早線では、富田林駅から金剛登山口方面への移動に際し「千早赤阪村立中学校前」で乗換が必要であり、将来むらづくりと協調した交通結節点となる拠点機能の拡充・強化が重要です。

課題2 交通空白地域の解消

- 高齢者等の通院、買い物といった日常生活に伴う移動手段の確保は待ったなしの課題です。高齢者等が安心して暮らし続けることができるよう各地域に適した移動手段の確保が必要です。

課題3 公共交通の利用促進

- 将来にわたり公共交通が維持できるよう、村民の公共交通に対する意識改善が必要です。
- 運賃システムの改善、複数の交通手段や観光施設等との連携、車両の導入等について検討が必要です。

課題4 財政負担の抑制

- 道路などの都市インフラ施設と同様に公共交通は、公共財に準じる社会資本であると認識が必要です。
- 公共交通の利用実態調査を行い、その結果を踏まえ、需要に見合った交通サービスを検討するとともに、本村の交通資源であるスクールバスとコミュニティバスの共同運行についても検討が必要です。
- 物価高騰といった社会経済情勢を踏まえ、適切な料金体系を検討する必要があります。

課題5 新たなモビリティサービスへの対応

- ライドシェアや自動運転等の新たなモビリティサービスに関する、国や府の動向も視野にいれて、本村の公共交通への導入に向けた取組が必要です。

千早赤阪村地域公共交通計画 概要版

5. 基本方針

■ 基本理念

元気なあいさつで みんなで創る『唯一』と である 金剛山のむら

■ 基本方針

基本方針1 日常的な生活の移動を支える持続可能な公共交通

- 本村のコミュニティバスや、タクシーの利用促進等により、公共交通空白地域を解消し、村民の日常生活の移動を支える持続可能な地域公共交通網の形成を図ります。
- 高齢者等の公共交通利用料等の負担軽減を図り、利用しやすい地域公共交通を目指します。

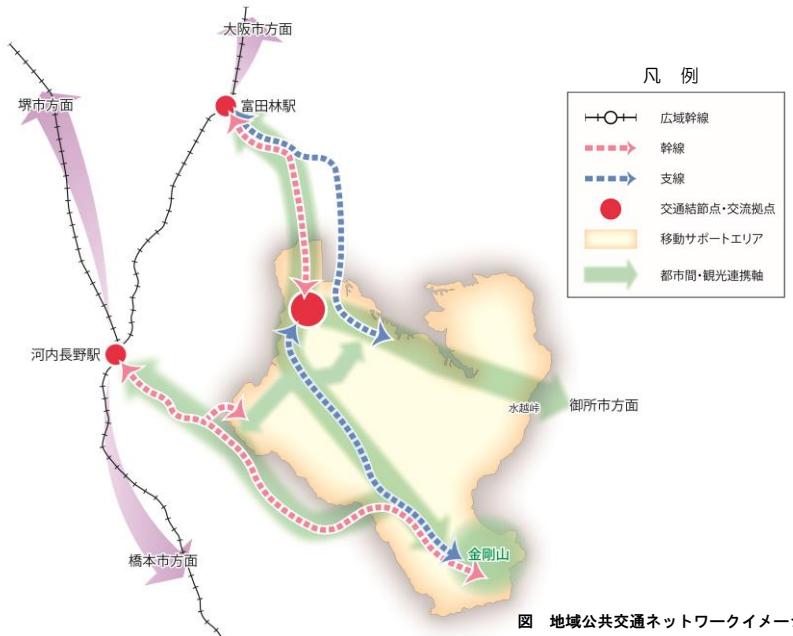
基本方針2 つながりを強化する公共交通

- 金剛バス撤退後の新たな公共交通サービスについて、関係市町と連携して、更なる利便性向上に向け取り組みます。
- 金剛山登山や観光目的で村外から訪れる方々が容易に、目的地に移動できるよう、公共交通サービスの強化を目指します。

基本方針3 村民や行政、交通事業者等が協働・連携し創り支える公共交通

- 将来にわたり公共交通が維持できるよう、村民や行政、各事業者が協働・連携した利用促進の取組を通じて、村民の公共交通に対する意識改善を図ります。
- 地域特性やニーズに応じた公共交通について、地域主導で創り支える生活交通手段の取り組みを支援します。

■ 地域公共交通ネットワーク



R5. 12. 21より運行開始した千早赤阪村コミュニティバス

7. 目標と評価指標

① 利用者数の確保・維持

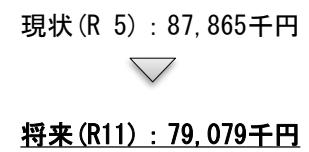
本村で運行する路線バス等の利用者数を維持



南海バス：小深線+小吹台団地線
白木線：河南町運行（富田林駅⇄東水分）
千早線（南海）：南海バス運行（富田林駅⇄中学校前）
村バス：千早赤阪村運行（富田林駅⇄中学校前⇄登山口）

② 財政負担の軽減による路線バス等の確保・維持

本村で運行する路線バス等への公的資金投入額を10%削減



本村で運行する路線バス等の収支率を4%改善



※計算式：収支率＝収入÷支出

③ 村内の路線バス等の路線延長の維持

村内で運行する路線バス等の路線延長を維持

約19km（現状維持）

<内 訳>	
小深線・小吹台団地線	6.4km
千早線	9.7km
白木線	2.9km

④ キャッシュレス決済の導入による利便性の向上

村コミュニティバスへのキャッシュレス決済の導入



6. 施策・事業

施策	R6 ~ R8	R9 ~ R11
I 持続可能な地域公共交通の構築		
I-1 千早赤阪村コミュニティバスの運行見直し	検討	実証・評価 → 運行
I-2 高齢者及び障がい者等への移動支援	検討	実証・評価 → 運行
I-3 小中学生への通学支援	検討	実証・評価 → 運行
I-4 安全運行に必要な道路環境の整備		道路改良事業
II 拠点・地域間連携によるネットワークの形成・強化		
II-1 千早赤阪村コミュニティバスの補完運行見直し	調査・検討	実証・評価 → 運行
II-2 公共交通結節点の機能強化・充実検討		調査・検討
II-3 隣接市町と連携した公共交通ネットワークの形成		実施
III 地域公共交通の利用促進		
III-1 交通系ICカードやスマホ定期等の導入検討	検討・導入	
III-2 複数の交通手段や観光施設等との連携検討	検討	実証
III-3 広報紙やSNS等を利用した公共交通情報の発信		実施
III-4 公共交通を利用する機会の創出	検討 → 実施	適宜見直し
III-5 高齢者等へのデジタル活用支援		実施
IV 新たな公共交通サービスの導入		
IV-1 新たなモビリティサービスの導入検討		検討

8. 計画の進め方

- 地域公共交通協議会において、本村に最適な公共交通体系の構築に向け継続的に向上を図ります。
- 4市町村の協議会とも連携して取り組み、必要に応じて計画を見直します。

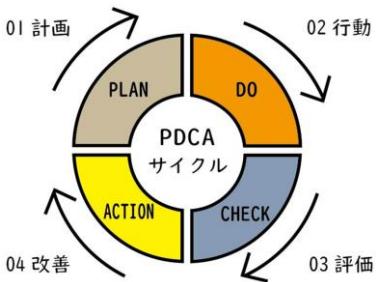


図 PDCAサイクルイメージ